

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第9回）

議事概要

1. 日時：令和2年1月30日(木)10:30～11:30
2. 場所：合同庁舎4号館4階共用第4特別会議室
3. 出席者：（※下線は代理出席）

平田 竹男	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長
宮田 亮平	文化庁長官
濱野 幸一	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
杉浦 久弘	文化庁審議官
三又 裕生	内閣府知的財産戦略推進事務局長
田中 正運	<u>復興庁統括官付参事官付企画官</u>
境 勉	総務省地域力創造審議官
吉田 弘毅	<u>総務省情報流通行政局情報通信作品振興課放送コンテンツ 海外流通推進室長</u>
志野 光子	外務省大臣官房国際文化交流審議官
後藤 健二	国税庁長官官房審議官
藤江 陽子	スポーツ庁審議官
神ノ田 昌博	厚生労働省健康局健康課長
橋本 泰宏	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
塩川 白良	農林水産省食料産業局長
藤木 俊光	経済産業省大臣官房商務・サービス審議官
高橋 一郎	観光庁次長
武市 玲子	<u>東京都生活文化局次長</u>
十河 慎一	<u>東京都産業労働局次長</u>
古宮 正章	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副事務総長

（オブザーバー）

- | | |
|-------|----------------------|
| 飯田 紀子 | 全国知事会調査第三部長 |
| 笹島 晃司 | 全国市長会社会文教部長 |
| 小出 太郎 | 全国町村会行政部長 |
| 柄 博子 | 独立行政法人国際交流基金理事 |
| 杉野 剛 | 独立行政法人国立文化財機構理事 |
| 清水 明 | 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長代理 |
| 匂坂 克久 | 独立行政法人国立科学博物館理事 |
| 松岡 建志 | 株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員 |
| 山崎 道徳 | 独立行政法人国際観光振興機構理事 |

(事務局)

伊吹 英明	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官
諸戸 修二	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官
竹田 憲	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 参事官

4. 議事要旨

＜平田事務局長 挨拶＞

【平田事務局長】

おはようございます。ご多用中、多くの関係機関の皆様にご出席いただき感謝申し上げます。2020年東京大会の開会まで残り176日ということで、大会本番が近づき、大会機運の醸成に向けた文化プログラムもいよいよ総仕上げの時期を迎えております。また、文化プログラムを大会後にレガシーとして繋いでいく視点が益々重要であると考えております。この会議で創設した「beyond2020プログラム」は皆様のご協力を得て、認証件数が1万5千件を超えております。「日本博」は3月14日のオープニングセレモニーから全国で連続的に展開されます。組織委員会、東京都の取組も含め、文化プログラムの骨格が明確となってきました。本日は、関係機関の皆様から、2020年に実施する文化プログラムの具体的なラインナップ等をご説明いただき、しっかり情報共有し、連携を更に深めていただきたいと思いますと考えております。

マイベストプログラムは、大会への参加意識を持っていただきながら、子供や高齢者、障害のある方を含め、多くの方が「自己ベスト」を目指す取組であります。昨年2月に認証を開始し、認証件数は70件となっております。これまでの取組の成果を大会のレガシーとすべく、関係省庁が連携してしっかり取り組んでいただきたいと思います。

本日は、忌憚のない意見交換をお願いいたします。

1. 各機関の取組について

(1) 文化庁、日本芸術文化振興会の取組

【文化庁 宮田長官】

2020年を迎えまして、いよいよ大会本番でございます。この会議の名称にもありますオリパラに向けた機運醸成も着実に進んでいると推察いたします。オリパラ開催に向け、今後、更にわくわくが止まらないというような取組を進めていきたいと思っております。このあと文化庁の事務局から説明がございしますが、皆様の御協力を得まして、政府を上げ、日本博をはじめとする文化プログラムの取組をしっかりと進めていきたいと考えております。先日、黒柳徹子さんに日本博の広報大使をお願いしたところ、大変お力強いお言葉をいただきました。今後、取組を更に加速させ、全国津々浦々を文化で華やかに彩るということ、オリパラに向けて機運を高め、レガシーとしていきたいと思っております。昨年のラグビー

ワールドカップでは大成功を収め、日本代表が大活躍いたしました。日本代表の如く、ワ
ンチームの精神で、平田局長をはじめ皆様と一体となって取り組んでいきたいと思いま
す。

- ・文化庁より、資料2について説明。
- ・日本芸術文化振興会より、資料3について説明。

(2) オリパラ事務局の取組

- ・内閣官房オリパラ事務局より、資料4について説明。

(3) 関係府省庁等の取組

- ・関係府省庁等より、資料5から資料12について説明。

(4) 東京都、組織委員会の取組

- ・東京都より、資料13について説明。
- ・組織委員会より、資料14について説明。

2. beyond2020 マイベストプログラムの認証状況等について

- ・内閣官房オリパラ事務局より、資料15について説明。
- ・スポーツ庁、厚生労働省、経済産業省より、以下のとおり発言。

【スポーツ庁 藤江審議官】

スポーツ庁では、オリンピック・パラリンピックを契機に競技力の向上とともに、スポ
ーツを通じて健康増進を図るということを重要なミッションとして考えておりまして、
成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度にするという「スポーツ基本計画」の目
標達成に向けて取り組んでいるところでございます。こうした中で、健康面等での自己ベ
ストに向けた取組を支援するというbeyond2020マイプログラムは日常的なスポーツの実
施にも資するものでございますし、また、昨今子どもの体力の低下が課題となっており
まして、体力の向上にも資するものと考えております。そのため、スポーツ庁といたし
ましても、総合型地域スポーツクラブですとか教育委員会、あるいは自治体のスポーツ
関係部署等に対しまして、会議での説明ですとか、個別の紹介などによってマイベスト
プログラムの説明を行ってきたところでございます。スポーツ庁では、今後の取組とい
たしまして、ひとりでも多くの方がスポーツを楽しんでいただいて、スポーツを行うこ
とが生活習慣の一部となる、そのような社会を目指して、「Sport in Life」プロジェク
トというものを開始したところでございます。このマイベストプログラムの参加団体を
含めまして、幅広い団体・企業等と連携し、マイベストプログラムを意識したスポーツ
の実施を呼びかけながら、スポーツを通じた健康増進が図られるよう、引き続き取り組
んでまいりたいと考えております。

【厚生労働省 神ノ田健康課長】

厚生労働省では、健康日本 21 に賛同する団体等で構成されます健康日本 21 推進全国連絡協議会等を通じまして、5,000 以上にのぼる企業・団体等にマイベストプログラムの周知・協力依頼等をしてきたところでございます。また、昨年 5 月には健康寿命延伸プランを策定いたしまして、2040 年までに健康寿命を男女ともに 3 年以上延伸し、75 歳以上とするという目標を掲げまして、予防・健康づくりの強化を図っております。今後とも、オリンピック・パラリンピックのレガシーとしていかすため、健康日本 21 や健康寿命延伸プランを推進する中で、マイベストプログラムの認証事例を好事例として横展開し、疾病の発症予防や重症化予防に向けた取組を、更に推進していきたいと考えております。

【経済産業省 藤木大臣官房商務・サービス審議官】

経済産業省におきましては、内閣官房、関係省庁の協力のもと、次世代ヘルスケア産業協議会ということで、個人の健康増進に資するヘルスケア産業の振興に取り組んでおります。特に、企業における健康経営への取組を推進しておりまして、beyond2020 マイベストプログラムにつきましても、こうした健康経営に取り組む企業に対しまして積極的な参加を呼びかけているところでございます。こうしたマイベストプログラムの取組を通じまして、まさに健康経営が広がり、個人の健康面等に対する行動変容のツールとして活用される、そうやって健康増進が図られることを強く期待しておりまして、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

3. beyond2020 プログラムの今後の運営について

- ・内閣官房オリパラ事務局より、資料 16 について説明。
- ・文化庁より以下のとおり発言。

【文化庁 杉浦審議官】

今年の 4 月から 6 月の間に、beyond2020 プログラムの業務、そして成果を内閣官房から文化庁に円滑に引き継ぎつつ、同時にこの制度創設の想い、日本各地の魅力あふれる文化を全国津々浦々で発信していく、この志をしっかりと引き継いでまいりたいと考えております。そして 2020 年のレガシーとしてこれからも発展させていきたいと考えております。また、同プログラムは関係府省庁とつながってこそそのネットワーク型の事業でもございますので、文化庁が汗をかくのはもちろんでございますけれども、皆様からも引き続き御支援、御協力をよろしくお願ひいたします。

- ・ beyond2020 プログラムを統括する役割を令和 2 年 6 月までにオリパラ事務局から文化庁

に引き継ぐ方針について了承。

＜平田事務局長より総括＞

【平田事務局長】

2013年に東京でのオリパラ開催が決まり、2020年をどう迎えるかを議論するためにできたのがこの会議です。当時は国際観光旅客税もなく日本博もありませんでした。今日は、ここまで来たのだなということを思った次第であります。組織委員会におかれましては、確固とした事業をまとめていただき、東京2020 NIPPON フェスティバルという素晴らしいものが出来上がりました。そして、東京都さんとも議論を重ね、Tokyo Tokyo FESTIVAL というものとなりました。政府につきましては、宮田長官率いる文化庁において日本博という形となりまして、非常に感動している次第であります。

また、beyond2020 プログラムについては、ノンスポンサー企業にも参加してもらって日本の文化を発信することによって機運を醸成しようとしたわけですが、非常によかったと思うのは、東京商工会議所に beyond マークを使用していただき、6、7年前には考えられなかった、文化の機運醸成の構えができたと思っております。宮田長官におかれましては、文化庁を率いるだけでなく、組織委員会における文化の面のリーダーとして、マスコット、メダルのデザイン、エンブレム等の選考に関わられるなど、あらゆる立場で2020年に向けた文化の構えを作っていただいたと思っております。また、公共空間である上野の道路を封鎖して文化イベントに使うことになるなど、本当にここまで来たなと思っております。

外務省と観光庁にぜひともやっていただきたいと思うのは、2020年の夏には大量の外国のメディアの方が来られます。大会会場に入るスポーツ報道の方のほか、IDがなく会場周辺の取材に来られる方も数千人規模でいらっしゃいます。こういった方々に対して日本の文化、地域の良さといったものを着実に発信していただくことが、この会議の締めくくりに非常に大事でありまして、それこそが文化プログラムの総決算であるわけでありまして、外務省、観光庁、あるいは文化庁の皆さんの力を合わせまして、プレスを受け入れ体制をぜひお願いいたします。

また、本日は経済産業省藤木審議官も来られていますが、これまでの6、7年の文化の試みをぜひ大阪万博の流れにも乗せていただければ、いいレガシーとなるのではないかと考えるわけでありまして、文化庁が引き継ぐ beyond2020 プログラムの発展、あるいは beyond2020 マイベストプログラムが関係省庁に発展するという議論がされました。最後になりますが、本当にここまで発展したのは皆様の力でありまして、聖火の引継ぎ式、聖火リレーから、日本博、Tokyo Tokyo FESTIVAL、そして組織委員会の東京2020 NIPPON フェスティバル、こういったところも踏まえまして、2020年を成功させたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

・閉会